

安全への取組

放射性物質による影響を防止するには、次の対策が必要です。

- 距離を保つこと又は遮へい材を置くこと
- 拡散させないこと
- モニタリングを実施すること

このような考えのもと、本施設は以下の対策を講じています。

設備配置の距離を保ち、遮へいします

- 放射線の強さは距離の2乗に反比例して減少するため、**住宅等から離れた場所に設置**する仮設焼却施設は周辺環境への影響を与えることはありません。
- 仮設焼却施設の各所の空間放射線量率を計算し、放射線防護上必要となる距離を評価し、設備配置しています。
- 施設運転の際は、放射線防護上必要に応じて遮へい材を設置しています。

放射性物質を閉じ込めます（拡散させない）

- 放射性物質と接触する**設備は密閉構造**としています。
- 高性能の排ガス処理装置（バグフィルタ）を設置しています。
- 焼却灰は、2重構造のフレキシブルコンテナに収納し、さらに20フィート海上コンテナ内に保管します。
- 主要な設備は**負圧管理された建屋内に設置**し、万一、放射性物質が建屋内に漏えいしても、仮設焼却建屋内換気フィルタで捕集し、外部への放出を防ぎます。

放射性物質の漏えいの有無を常時監視します

- 仮設焼却**建屋内の4箇所**で、空間放射線量率および空气中放射能濃度を常時測定・監視します。
- **敷地内にモニタリングポストを4箇所**設置して空間放射線量率を常時測定・監視します。
- 設備から放出される排気、建屋排気中の**放射能濃度を常時測定・監視**します。

異常発生にも対応できる万全の体制を構築します

- **異常発生を想定した施設状況の分析を事前に実施**し、多重・多様の検知手段や安全対策を施しています。**万一、異常が発生した場合は、警報で知らせたり、自動的に設備停止するなどの設計が**施されています。（ハード対策）
- **緊急時対応マニュアルを整備**し、定期的な訓練を通して、緊急時対応の確認、課題の抽出、**継続的な改善**を進めます。（ソフト対策）

周辺環境に配慮した臭気対策等を実施します

- 仮設前処理テントでは、テント内の**負圧管理、集じん装置の設置、活性炭脱臭装置の設置**といった対策を行います。
- 仮設前処理テントから受入ホッパ室までは、**汚泥を水密性コンテナに収納して運搬**します。
- 受入ホッパ室内の**臭気は、活性炭脱臭塔にて処理**します。

施設運転時における定期的な安全確認を実施します

- 定期的な安全パトロールを実施し、施設の管理状況を確認します。必要に応じて迅速な改善対応を行います。
- 定期点検により、設備状況を綿密に把握し、予防保全に万全を期します。



表示機能付き
モニタリングポスト

